

## 農 研 速 報

令和3年 4月 7日発行  
茨城県農業総合センター農業研究所  
〒311-4203 茨城県水戸市上国井町3402  
TEL:029-239-7212 FAX:029-239-7306

麦の生育状況(4月6日調査)

地域名	麦種(品種)	生育ステージ	対平年遅速	生育(作柄・品質)概況等	備 考
水 戸	11月5日播種 小麦 (さとのそら)	穂ばらみ期	早い (4日早い)	気象概況:3月第6半旬～4月第1半旬(過去5年間の平年値との比較) 上記期間の平均気温は14.4℃で、平年(10.4℃)に比べてかなり高かった。 降水量は60mmで、平年(28mm)に比べ多かった。 日照時間は63時間で、平年(73時間)に比べやや短かった。	【留意事項】 ・「対平年遅速」は、主稈幼穂長から予測される出穂期を基に表記した。  ・「穂ばらみ期」は止葉展開期から出穂前日までの期間。
	六条大麦 (カシマムギ)	穂揃い期	早い (5日早い)	生育状況(過去5年間の平均値との比較): (11月5日播種) ●さとのそら:草丈はかなり長く、茎数は平年並だった。 主稈長、主稈幼穂長はかなり長かった。	
	(カシマゴール)	穂揃い期	早い (4日早い)	●カシマムギ:草丈はかなり長く、茎数は平年並だった。 出穂期は4月2日だった。 ●カシマゴール:草丈はかなり長く、茎数は平年並だった。 出穂期は4月3日だった。	
	11月20日播種 小麦 (さとのそら)	節間伸長期	平年並 (平年と同等)	(11月20日播種) ●さとのそら:草丈はかなり長く、茎数はやや多かった。 主稈長はやや長く、幼穂長は平年並だった。 ◇主稈幼穂長から予測した出穂期 (11月5日播種)さとのそら:4月12日前後で平年より4日早い カシマムギ:4月3日(実測)、カシマゴール:4月2日(実測) (11月20日播種)さとのそら:4月20日前後で平年並	

表 畑における生育(水戸市 茨城県農総セ農研 作物研究室)

播種期 (月・日)	麦種	品種名	主稈葉数			草 丈			茎 数			葉色(SPAD値)		
			本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)
11.5	小麦	さとのそら	10.9	-0.1	0.0	61.6	130	125	1,123	186	107	44.4	122	106
	六条大麦	カシマムギ	10.8	-0.6	-0.5	75.4	140	143	853	173	106	53.2	118	106
		カシマゴール	10.8	-0.7	-0.7	81.1	122	130	963	192	106	49.1	114	115
11.20	小麦	さとのそら	9.7	0.1	0.3	51.0	120	125	1,101	165	112	43.0	109	97

播種期 (月・日)	麦種	品種名	主 稈 長			主稈幼穂長			主稈幼穂長から予測される出穂期(月・日)			
			本 年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)	本 年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)	今後の気温の推移(平年比)			平年値
11.5	小麦	さとのそら	310	144	146	68.5	36.2	42.9	-2℃	0℃	+2℃	4.16
	六条大麦	カシマムギ	692	197	347	40.0	4.5	6.8	-	-	-	4.08
		カシマゴール	792	152	320	47.0	10.7	10.8	-	-	-	4.06
11.20	小麦	さとのそら	159	13	41	26.1	-1.2	1.6	4.22	4.20	4.18	4.20

耕種概要 1)圃場(来歴):表層腐植質黒ボク土(前作休耕畑)

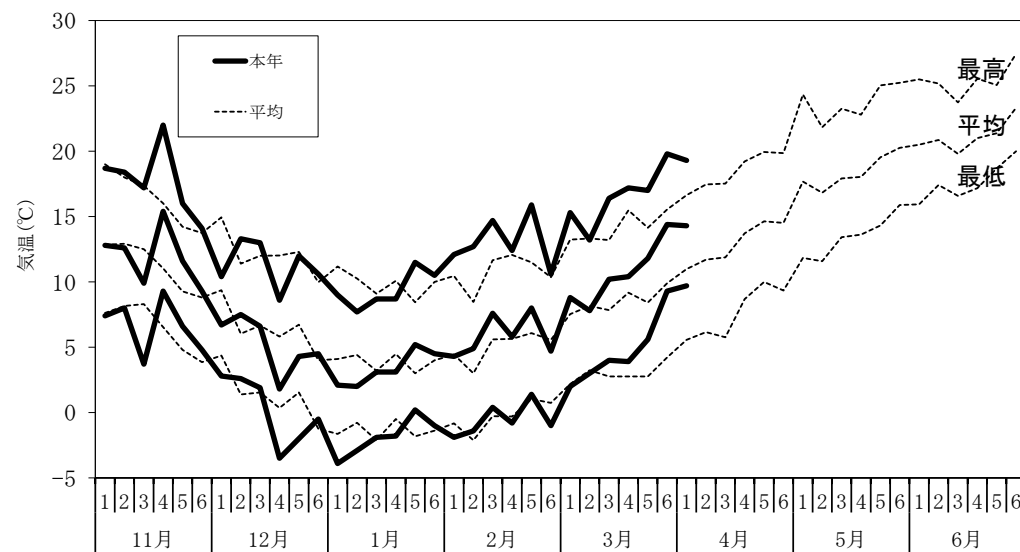
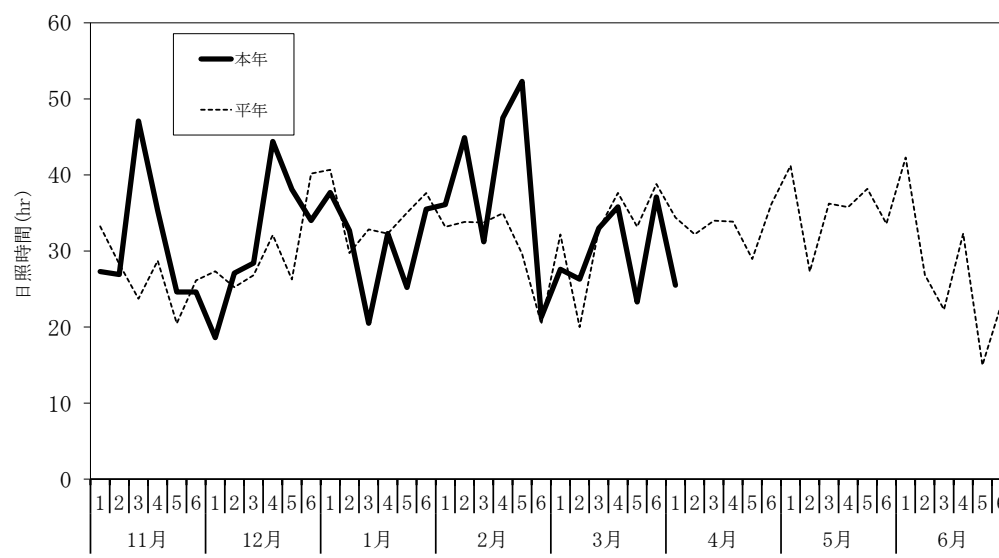
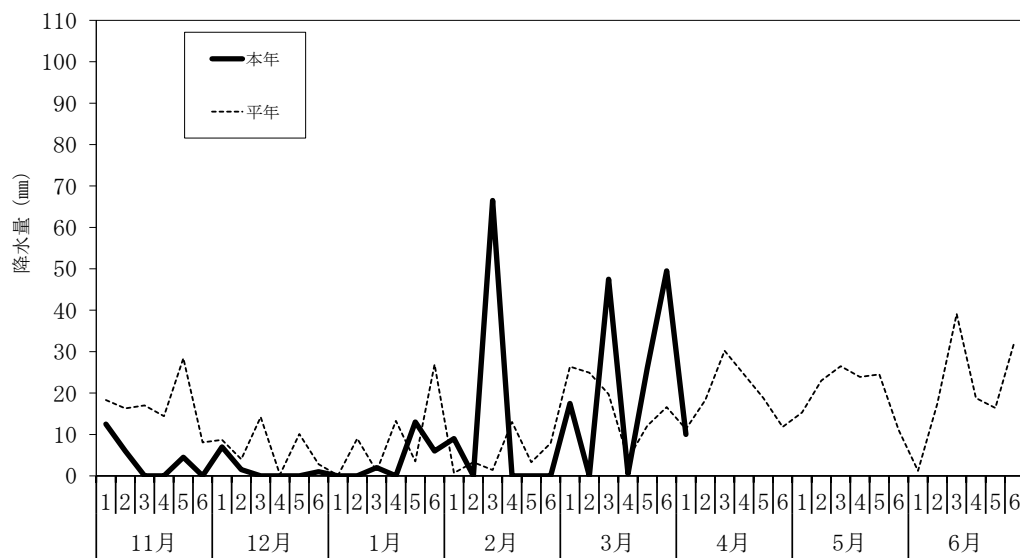
2)播種量:0.8kg/a

3)施肥量:N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=0.6-0.6-0.6kg/a

4)播種様式:畦幅30cm、シーダーテープ播種

5)平年値:平成27～令和元年播種の結果の平均。

6)麦踏み:12月16日、1月7日、2月1日



麦(令和2年播種)における半旬別気象経過図  
(水戸地方気象台データを参考に作成。平年値は直近5年間の平均値。)





さとのそら 11月5日播種 (4月6日撮影)



カシマムギ 11月5日播種 (4月6日撮影)



カシマゴール 11月5日播種 (4月6日撮影)



さとのそら 11月20日播種 (4月6日撮影)



気象概況および生育状況における表現について

平年値(過去5年間の平均値)との違いの程度を、「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」等の階級区分で表しています。  
各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めています。  
さらに、「低い(少ない)」、「高い(多い)」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。

